

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
心と智恵と技とをどぐ上峰っ子の育成	① 豊かな心の育成 ② 確かな学力の定着 ③ 健やかな体の育成

達成度 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校	*開かれた学校づくりの推進	・参観者数を昨年度より増やす。 ・学校だより等で学校の様子を知らせる。 ・地域の方々との連携や協力を促す。	保護者や地域の方々に、学校だよりや各学年・学級だより等で来校を促すと同時に、携帯電話の「マチコミ」による情報発信、日程をホームページや文書で早目に連絡する。また、地域の人材活用については、目的を踏まえて、常に見直しを図っていく。学校だよりやHPでも紹介する。	A	・保護者アンケート「学校・学年便り、ホームページで学校の様子を伝えていく。」では92.5%の高評価をえることができた。 ・保護者アンケート「授業参観・学級懇談・PTA活動に参加している。」では80.3%であり、実際の参加率も75.3%と高い。 ・地域の人材活用については、年間を見通した計画を立てて実施、定着している。	・年度末に授業参観の案内プリントを配布し、保護者に期日や内容を早めに知らせる。さらに通信やマチコミでの情報発信を継続していく。 ・ホームページでのお知らせコーナーの充実を図り、学校への関心を高める。 ・地域の人材活用一覧表を作成し、目的を踏まえて、常に見直しを図り、地域に開かれた学校を目指す。
教育活動	●いじめの問題への対応	*人権教育の充実	・生活アンケート「人のいやがることを言ったりしない」児童を90%以上にする。 ・生活アンケート「友だちには、さんやくんをつつける」児童を90%以上にする。	・生活アンケートを月に1回実施し、実態を把握して、指導する。 ・保護者へのアンケートを年に1回実施し、実態把握をして改善に生かす。 ・「いよい子」(連絡帳)や学年・学級便りを使って、常時、保護者と連携する。	B	・生活アンケートで出た事案については、担任や学校で、はやめに対応してきたので、徐々に改善してきている。 ・毎日の連絡ノートや日々の観察で常時、保護者と連携して対応することができた。 ・一方で、保護者アンケート「学校は、いじめや事故の防止に取り組んでいる。」の項目では、(よくあてはまる)が、21.3%、(だいたいあてはまる)が、55%で、学校の取り組みがあまり知られていない。	・今後は、アンケート週間を設定し、『生活アンケート』の内容は変えずに『心のアンケート』として、アンケートを実施する。 ・保護者へのアピールの仕方を工夫しながら、保護者にも取り組みを知らせることで、共にいじめの解決に向けた取り組みをしていく。
	○生徒指導・教育相談の充実	*生活指導・教育相談の充実	①あいさつ指導②清掃指導③廊下歩行指導④はきもの指導⑤言葉づかい指導の5点に重点をおき、反復・継続的に指導することで、生活・行動の規範意識を高め、落ち着いて学校生活を送ることができるようになる。 ・不登校や不登校傾向の児童数を減少させる。	・毎月、生活朝会や学年朝会で指導を行う。緊急の場合は、校内放送でも指導を行う。職員がひとりて抱え込むことが無いよう、チームで指導を行っていく。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの関係機関と連携・協力する。	B	・お昼の放送で、みんなのために頑張っている児童や、あいさつ名人を紹介することで、落ち着いた生活ができるようになってきた。しかし、児童全員の意識を高めるまでには至ってならず、児童の意識を高めるための手立が必要である。	・引き続き、学年朝会や生活朝会で、指導を行い、校内放送でも呼びかけていく。 ・職員が、一人で悩むことのないよう、チームで指導を行っていく。 ・登下校については、引き続き登校班長会を月に1回開き、児童の登下校のマナーを高めていく。 ・不登校傾向の児童については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの関係機関と引き続き、連携・協力していく必要がある。
	●心の教育	*人権・同和教育の充実 *特別活動等の充実 *道徳授業の充実	・人権・同和教育の推進を図り、一人ひとりの児童が楽しく過ごせる学校・学級作りを行うとともに差別を許さない態度を養う。 ・計画的な集会活動や毎月の委員会活動を実施する。 ・道徳授業の工夫改善を図る。また、年1回ふれあい道徳を全学年で行う。	・全校で「なかよし積み木」に取り組み、児童がお互いに認め合う活動を仕組む。 ・部落史・部落問題学習に取り組み、差別を許さない児童を育てる。 ・集会活動や縦割り活動などの異学年交流をとおして、責任感や思いやりの心を育てる。 ・参観日に道徳の授業を行い、保護者や地域の方に、本校道徳教育の理解を求める。	B	・今年度は、各学年、『なかよし積み木』に積極的に取り組むことができた。 ・部落史学習には、取り組めた。 ・「ふれあい道徳」を実施することで、学年で教材研究をすることができた。また保護者にも道徳教育についての理解を図ることができた。	・『なかよし積み木』には、来年度も引き続き取り組んでいくとともに昼の放送等でも紹介していく。 ・道徳と連携し、道徳の年間計画を作成する際、部落問題学習を位置づけていく。 ・来年度も授業参観日に「ふれあい道徳」を実施し、本時のねらいを保護者に知らせることでより一層の保護者の理解を図る。

②確かな学力の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	*学びのきまりの徹底 *確かな学力の育成 *基礎学力の徹底指導 *校内研究の充実・推進 *読書指導の充実	全校統一した学習規律を周知徹底させる。 個と集団がともに高めあう授業づくりを推進する。 基礎基本の定着を目指す。 年間の読書量80冊以上達成する児童が、全校の70%以上になるように取り組みを強化する。 各学年の推薦図書を紹介を行い、読書の質の向上を目指す。	・学業指導部を中心に学習規律の見直しを行う。 ・全学年で算数科の研究授業を行い、授業力の向上を図る。4月・12月・2月にCRTや学力テストの分析結果をもとに対策を図る。 ・学力向上部を中心にここに学習の内容を見直し系統立てる。 ・学業指導部を中心に家庭学習を見直す取り組みを年3回行う。 ・「1か月8冊達成」を合言葉に短いスパンで声をかける。 ・読み物の本の推奨、ふるさと学館の利用を促すなど全校での共通した指導を行う。	B	・学業指導部を中心に『授業を受けるときのルール4か条』を作成、ルール4か条を教室に掲示し、意識付けを行った。 ・CRTテストや学習状況調査の結果を分析し、取組を話し合う研修を2回行った。調査結果については、目標値に到達できなかった。 ・ここに学習に系統立てて取り組めるように職員室前にプリント棚を設置し、内容も含めたやり方の見直しも行った。 ・家庭学習アンケートを実施し、家庭学習の大切さを保護者に知らせる取組を年3回行い、家庭との連携を図った。 ・職員の意識調査「児童が目標冊数の本を読むよう手立てをとっている」という質問に、「あまりあてはまらない」と回答した割合が26%。読書の重要性を共有できていない部分があったため、年間読書量は全校平均月62冊(1月末現在)と目標を下回った。	・年度初めに12月調査結果から、基礎基本の定着や活用力向上をめぐり、確実に学力向上につながる取組について話し合う。校内研究とからめて取り組める内容を具体化し、全職員で実践する。 ・各学年ごとの貸出目標冊数を決め、図書室に本を借りに行く時間を確保する。家庭学習での読書や朝読等に取り組ませる。家庭とも連携し、読書を奨励する。 ・図書委員による低学年への読み聞かせや、図書委員のおすすめの本の紹介などの取り組みを企画し、児童が読書に関心を持つことができるような環境づくりに努める。
	●志を高める教育	*自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 *校内研究(算数科)の充実 *職員研修の充実 *参画意識の育成	・研究授業の充実を図る。(研究会:6回、教科等研修会での発表を含む) ・職員研修を年5回以上開催する。 ・部会の充実を図る。 ・中堅教員によるメンターミーティングを年間13回開催し、若手教員の育成を図る。	・毎回講師を招聘し、研究会の充実を図る。 ・職員の経験や特技を生かした研修を行い、職員相互の情報交換の機会を増やす。	A	・特別支援教育、QUIに関する内容、服装、安全に関する研修、外国語、道徳等の研修を実施。教職員アンケート「研修会で学んだことを教育活動にいかす」の項目等では95%の職員が「あてはまる」と回答、資質向上を図ることができた。 ・中堅教員によるメンターミーティングを13回実施、若手教員の育成を図るとともに講師となった職員の学校運営に自ら関わろうとする意識も向上した。	・次年度から本格実施するキャリアパスポートを中心に、自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動となるよう学習計画を工夫する。 ・各担当による研修を学校に課題に合わせて計画することでより一層の教職員の資質向上を図る。
	○特別支援教育の充実	教員の専門性と意識の向上	・特別支援教育に関する研修会を行い、専門性が向上したと感じる教員の割合を80%以上にする。 ・ケース会議などを充実させ、支援が必要な児童に対してチームで対応できたと答えられる教員を80%以上にする。	・年間3回以上研修会を行うことにより、専門的知識を深めることで、それぞれの児童に対して適切な対応ができるようになる。 ・毎月必要に応じてケース会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有し、全ての教員が対応できる環境を整える。	A	・佐賀県教育センターから指導主事を講師に招き、全員参加の研修会を夏季休業中に小中合同で行った。 ・専門性が向上したと感じる教員の割合は70%だったが、支援が必要な児童に対してチームで対応できたと答えた教員は93%であった。必要に応じてSCとのカウンセリングやSSWも含めたケース会議を開くことができた。決定した支援については関係者で共有して支援を行うことができた。 ・特別支援学校からの巡回指導を受けることで、児童の実態に応じた支援を行うことができた。	・具体的な対応について考える事例研修会を実施し、より専門性が向上できるような研修会を計画する。さらに、特別支援学級担任と交流学級担任で対応を話し合う機会を設ける。 ・必要に応じて、関係する外部機関・関係者を確認し、SCやSSWとの連絡調整を行い、ケース会議を設定する。共通理解してチーム対応できるようにする。

③健やかな体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	*基本的な生活習慣の確立	保護者や児童への啓蒙をすることによって、保護者アンケート「我が家では、良い生活習慣の定着、食事の工夫、健康疾病治療に努めている。」の回答を90%以上にする。	栄養教諭とのTTで栄養についての授業を行い、食への関心を高め、食マナーや健康への意識化を図る。 学級活動として、歯磨き指導を授業で行い、児童や保護者にさらに歯の健康に気を付けるように意識付けをさせる。電子黒板に歯磨きの音楽を入れ、いつまでもつかるようにして、給食が遅い児童も確実に歯磨きはできるようにする。	B	・総合的な学習の時間、保健、学級活動など様々な学習に学校栄養士が関わり、学年に応じた食や健康についての知識を深めることができた。アンケート結果でも90%以上ができていたと回答しており、食マナーについては、よい習慣が確立できている。 ・歯みがき指導は、全クラスに歯科衛生士からの指導を実施できた。1・5年生は、授業参観時に行うことにより、保護者への啓蒙にもつながった。 ・高学年になるにつれ、歯磨きは個人に任せられるようになることもあり、できていない傾向にある。	・食についての関心を高め、食マナーについてもよい習慣をつけられるよう、今後とも連携を密にして、継続して指導していきたい。 ・歯科衛生士の情報交換を十分に行い、児童の実態にあった指導を継続する。 ・保健委員会と協力し、歯磨きについて働きかけをする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・チームの中で連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり平均を23時間以下にする。	・校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ・年間計画を常に見直し、子どもと向き合う時間の確保を行う。 ・月曜日から木曜日は、19時までに学校を施設、毎週金曜日を定時退勤日とし、事前周知を行う。	A	・昨年度末に共有フォルダの整理を行った。年度初めの校務運営がスムーズにできた。 ・ICT担当と連携し、フォルダの整理を行ったため、文書を探す時間が軽減された。 ・校務を大きく3つのグループに分け、チームで運営ができるように組織を整えたため、チームで円滑な実施ができた。 ・時間外勤務月平均23.6時間、目標値をほぼ達成できた。金曜日の定時退勤については守れない職員もいたため、更なる業務内容の改善と意識改革が必要。	・新セネットによる電子データでの会議を活用し、電子媒体での会議についても促進する。 ・定例会議の時間縮減、学年主任会等での教育活動の見直しを行い、子どもと向き合う時間を確保する。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

今年度の目標については、おおむね達成することができたが、「学力向上」や「いじめへの対応」については課題が残る。今後も「校内研究」と「学力向上」を結びつけ、全職員が自分事として受け止めて取り組めるよう改善していきたい。また、「いじめへの対応」にも力を注ぎ、早期発見早期解決と保護者との連携を軸にして取り組めるように改善を図る。さらに、地域人材の活用一覧表を作成し、「地域に開かれた学校」を目指していきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目